

会 議 録

会議の名称		守谷市図書館協議会（令和4年度 第4回）		
開催日時		令和4年2月22日（水） 開会：10時00分 閉会：11時30分		
開催場所		守谷中央図書館 3F 視聴覚室		
事務局 （担当課）		教育委員会 中央図書館		
出席者	委員	長谷川委員長、野口副委員長、赤堀委員、川畑委員、藤平委員、堀越委員、広永委員（出席：7名）		
	その他			
	事務局	平塚館長、柳葉副館長、伊藤係長		
公開・非公開 の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第		1 開会 2 挨拶 3 協議内容 (1) 令和4年度中央図書館事業実績について (2) 「守谷中央図書館大規模改修に関するアンケート」 集計結果について (3) 雑誌冊数制限撤廃等について (4) その他 4 閉会		
確定年月日		会議録署名		
令和5年4月10日		長谷川 登代		

審 議 経 過

1 開 会

柳葉副館長 7名の委員が出席、守谷市図書館協議会設置条例第6条第2項の規定により会議は成立。傍聴者は3名。

2 挨 拶 長谷川委員長

3 協 議

(1) 令和4年度中央図書館事業実績

長谷川委員長：協議（1）の令和4年度事業実績について、事務局から説明をお願いします。

—平塚館長から説明—

令和4年度事業実績評価（2月12日現在）に基づき説明。

長谷川委員長：ご意見、ご質問のある方はお願いします。

赤堀委員：「図書館資料から見る守谷の歴史展」の資料は、大変興味深く拝見しました。その年表等の資料は、保存していますか。

平塚館長：担当が保管しています。

赤堀委員：この「歴史展」の資料は、何度も見てみたいので、ぜひ毎年、実施していただきたい。また、学校での「出前展示」を実施しても良いかもしれません。

川畑委員：「ADEAC（アデアック）」について、教えていただきたい。

平塚館長：ADEACとは、デジタルアーカイブのことです。守谷市にある郷土資料をデジタル化して、インターネット上で公開しています。ADEACというシステムの中に守谷市も参加しており、このリンクをクリックすることで、守谷市が提供している情報を閲覧することができます。また、ADEACの公開用ページでは、守谷市以外で提供している情報についても、閲覧することができます。

川畑委員：ホームページと違うのですか。

平塚館長：守谷中央図書館HPの中にADEACのHPに行けるバナーが貼ってあり、クリックをすると見られるようになっております。

藤平委員：「守谷市子ども読書活動推進計画」とはどういうものですか。

平塚館長：現在は、第四次計画まで策定しており、5年に一度、計画の更新を行っています。計画に基づき、子どもの読書活動を推進するため、取組みに対する目標を掲げているものです。

藤平委員：子どもたちが本を好きになるような推進をしていくことですね。例えば、どんなことですか。

平塚館長：おはなしボランティアの活動において、おはなし会を開催すること

で、子どもたちに本を好きになってもらうということが挙げられます。また、図書館では、学校との連携を進めているところですが、図書館が支援することで、学校図書館を充実させ、子どもたちの図書を親しむ環境づくりを進めること。具体的には授業で使うことができる図書を支援していくことが挙げられます。

また、市内の幼稚園や保育所と連携し、図書館で選定し本を提供する「ブックパック」の貸出しをしています。

守谷の子ども読書推進は、かなり前から「ブックスタート」を実施しております。そこから、乳児、幼児、児童、生徒というところまで、さまざまな形で、図書館が支援をしていくというものです。

長谷川委員長：学校と連携を取り、また幼稚園や保育所との「連携をどれだけ進められるか。」という内容を冊子にしたものですね。

平塚館長：そのとおりです。今回、おはなしボランティア連絡会において、抜粋版ではございますが、おはなし会の代表の方に、計画書を配布しています。機会がございましたらご覧いただきたいと思えます。

長谷川委員長：P 6にある「ショートショート書き方講座」とは、どのような内容でしょうか。

平塚館長：「短い小説「ショートショート」を実際に書いてみよう」という企画です。

藤平委員：例えば、星新一氏の小説のようなジャンルでしょうか。

平塚館長：そのとおりです。

赤堀委員：対象は、高校生以上ですか。

平塚館長：中学生以上です。

長谷川委員長：P 5にある「科学道100冊の展示」というのは、どういうものですか。

平塚館長：理化学研究所という所が、毎年科学の本や理系の本を選定していますが、その展示です。

長谷川委員長：分かりました。

堀越委員：質問ではなく、事業のPRとなりますが、よろしいでしょうか。

令和4年5月に前図書館長の講演により、家庭教育講座を開催し、「親子読書のすすめ」という内容で大変好評でした。令和5年度においても、5月27日（土）に「もりりん中央」にて、平塚館長を始め、中央図書館の職員の方々に親子読書に関する内容で実施する予定です。今後、広報紙等で掲載予定ですが、お知り合いの方などに当講座があることをお知らせいただけましたら幸いです。

（2）「守谷中央図書館大規模改修に伴うアンケート」集計結果

長谷川委員長：協議（2）「守谷中央図書館大規模改修に伴うアンケート」集計結果について、事務局から説明をお願いします。

—柳葉副館長から説明—

「守谷中央図書館大規模改修に伴うアンケート」集計結果に基づき説明。

長谷川委員長：ご意見、ご質問のある方はお願いします。

赤堀委員：アンケートの意見を見ると、様々な意見があったが、個別に回答をすることはしないのですか。

野口副委員長：個別に回答するのは、図書館側に相当な負担がかかるので、そこまで求めるのは難しい。先ほどの説明のとおり、アンケート集計結果の報告の公表までで、問題ないと思います。

長谷川委員長：集計結果のまとめのところに「今回の意見は、～時代に即した快適な利用空間を提供できるよう」と書いてあり、この集計結果を見るだけで、ある程度方向性が見えると思います。

川畑委員：このアンケートの実施期間が1か月以上あったのですが、私の家族や友人に聞くと、意見を言いたいことがたくさんあったが、アンケートを回答する前に終了してしまったとの話を聞きました。これで終わりなのか。最終的に決まるまでは、何度か繰り返してアンケートを実施するのかをお聞きしたい。また、予算の限界はあることは理解していますが、しかし、大規模改修工事というところとある程度、市民の期待度が上がっています。個性的なものを目指すのか、実用的なものを目指すのか。また、目指すもの（方向性）を最終的に誰が決めるのか等、そこを市民の皆さんは知りたいと思うのです。

視察をした北茨城市立図書館では、喫茶コーナー、飲食スペースがあり、イス一つ一つの配置にも気を配り、展望スペースもありました。一番良いと感じたことは、職員の皆さんが常に笑顔でとてもゆとりがある図書館という印象でした。いつ誰が来館しても、居心地が良い場所とされているのだろうと思いました。

すべての要求が満たされる訳ではないことは分かるのですが、ある程度の予算や規模等を公表してから、再度、アンケートを取った方が、いろんなアイデアが出るのではないかと個人的には思います。

長谷川委員長：予算規模が粗方見えてから、意見をとった方が良いという事ですか。

川畑委員：そうです。

長谷川委員長：また、笑顔をつくるということは、図書館員の人たちが、その図書館に満足している。余裕があることではないかと思えます。

川畑委員：先ほどの事業実績の報告でもあったとおり、たくさんのイベント等を実施するなど、多忙を極めており、職員が疲弊しているようではないかと思えます。例えば、人数が足りなければ、ボランティアに協力してもらうこととか。もっと市民の力を借りるなど、今は、そういう時期に来ているのではないかと思えます。

赤堀委員：このアンケートの結果を見る限り、この図書館がいかに施設の運営に

努力を尽くしているのに、利用者に伝わりきれていないような印象を持ちました。図書館を利用しているからこそ、いろいろな要求が出てくるのだろうとは思いますが。しかし、アンケートの意見の中で、「図書館を使いこなせていないのでは。」との意見があったように、もっと、図書館の良いところを知った上で、意見を言うべきではないかと思いました。いわゆる3年間の指定管理者導入の時代があり、それに伴い開館日、時間が延長になるなど、今まで流れていった結果が今回のアンケートの結果になっていると感じています。図書館は、貸本屋ではないということを知ってほしい。事業をこれほどやっているのに、どうして伝わらないのかと思いました。

長谷川委員長：図書館本来の図書館サービスでなく、最近では、図書館業務以外のサービスに変わってしまっていると言えます。

広永委員：そのとおりだと思います。人は快適さを求めてしまうときりがありません。アンケートの意見を見て、「これは図書館が行うことではないな」と思うような意見があり、正直私はがっかりしました。

自分の要求や快適さを図書館に求める考え方は、少し違うのではないかと思います。

平塚館長：今後の進め方としては、これから行わないといけない一つ目は、老朽化している箇所への対応と、2つ目は、建物を今後30年から50年は、少なくとも維持ししていかなければならない長寿命化への対応。3つ目は、建設資材を30年以上維持していくためには、時代背景や不具合への対応が必須であること。さらに、4つ目は、守谷の図書館はどうあるべきか等の図書館像や利用者のニーズの検討が挙げられます。また、直接、改修工事とは異なりますが、図書館システムのリプレイスについて、更新時期を改修後の期間に合わせ、場合によっては再リースする。その後、新しくなった図書館に図書館システムのリプレイスについて、これまで改修をしている図書館の傾向として、ICタグを導入し、自動貸出機を導入する図書館が多いことから、その検討をすることで、新たなサービスを充実させることが挙げられます。

野口副委員長：館長の話を知って、改修を進めていく流れは、よく分かりました。しかし、アンケートに答えた皆さんが、「大規模改修」というイメージをどの程度まで図書館側の意図が伝わっているのか。きちんと伝わっているのかは、不安なところはあるかなと思います。もしかして、「建て替え」というイメージを持っている人が多いのではないかな。建て替えでなく、建物の中を「リニューアル」または「長寿命化」を行うということをしつかりと市民の皆さんに伝わっているのかという所で、もしかしてまた要望が変わってくるかなとは思いますが。しかし、アンケートを再度行うことは大変であるため、利用者の方に声掛けをして、ミニワークッ

ショップのような機会を作り、改修という視点で意見を聴取するとか。何かの行事や催しものとして開催しても良いかもしれません。

広永委員：できれば、リニューアルという言葉の方が分かりやすいですね。大規模改修というと、骨組みを根本的に改修するというイメージがあるので…。

平塚館長：アンケートを取りまとめた図書館側としては、建て替えを想定している意見は少なく、改修というイメージから思ったほど広がりのある回答はなかったと感じております。建て替えではなく、改修であることを理解されていると思っております。

長谷川委員長：私たちの時代では、長い間経過した建物を改修するという事は、建て替えをするというイメージがついてしまっている。しかし、若い世代から30歳から40歳までの世代の方は、そう感じないと思います。

広永委員：誤解させると困りますね。また、守谷市は、他県から来られている方も多いので、以前に住んでいた地域や地区のことをあれこれと言われるは困りますね。

野口副委員長：この図書館の良さは、立地の良さ（市役所と隣接している）にあると思います。要望が出ている「軽食コーナー」や「駐車場を増やしてほしい」との意見について、図書館が単独で考える話ではなく、市役所の駐車場全体で考えること。また、飲食できるコーナーについては、市役所の中に作っても良いとも考えられます。要望等を全部図書館で完結する必要はない。他部所との連携を取り、他部署で任せられるところは、任せても良いのではないかと思います。

赤堀委員：改修工事期間（閉館期間）について、もう一度お願いします。

平塚館長：令和7年（2025年）の夏ごろから、令和8年（2026年）の夏までを予定しています。

赤堀委員：現在の図書館協議会委員の任期は、いつまでですか。

平塚館長：令和7年の5月末までです。

赤堀委員：工事に入る直前までですね。了解しました。

（2）雑誌冊数制限撤廃等について

長谷川委員長：協議（3）雑誌冊数制限撤廃等について、事務局から説明をお願いします。

—柳葉副館長から説明—

意見について、特になし。

（3）その他

第3回図書館協議会（令和4年11月18日）において実施しました北茨城県立図書館の視察研修の報告について

—柳葉副館長から説明—

当日の写真等より、視察内容の説明。

赤堀委員：視察研修を欠席したのでお聞きします。北茨城市立図書館は、守谷の図書館と比べて規模はどのくらいですか。また、写真を見ると総合カウンターとレファレンスカウンターが一緒になっているようですが…。

柳葉副館長：北茨城市立図書館は、当図書館と比べると少し小さい図書館です。レファレンスカウンターについては、総合カウンターと一緒にしている場所の他に、単体でレファレンスカウンターが設けてありました。

4 閉 会

柳葉副館長：それでは、以上をもちまして本日の図書館協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。